



小国人



令和6年11月6日(水)発行 第18号 文責：校長 横澤 聡一

最高の合唱コンクール！！ 歌声は一瞬。感動は永遠。

11月1日(金)、合唱コンクールが開催されました。今年度は、10月に運動会を実施したことにより、運動会の合間に音楽の授業で合唱コンクールの練習をするなど、例年になく慌ただしい中での合唱練習となってしまいました。そのような中であっても、どのクラスも、最優秀賞を目指し、リーダーを中心に一生懸命練習する姿があり、本当に感心しました。

今回の合唱を聞いての感想として、全体的に素晴らしい合唱！！「歌声は一瞬。感動は永遠。」歌声は一瞬に消え去っていくけれども、クラスメイトとの思い出や感動は永遠のものとなったのではないのでしょうか。友情を感じながら、いつまでも心に残るハーモニーを響かせてくれました。

1年生は、初めての合唱コンクールながら、元気あふれる生き生きとした歌声でした。2年生は、質の高い合唱で3年生をも超えるようなすばらしい合唱でした。3年生は、中学校生活最後の合唱コンクールにかける思いやパワー、ハーモニーが会場全体を包むような合唱でした。有志合唱も全校合唱も会場においていただいた保護者、地域の方々、そして先生方に感動を与え、元気を与えてくれるすばらしい合唱でした。最優秀賞の3年1組の皆さん、優秀賞の3年2組の皆さん、指揮者賞を獲得した加藤瑠衣斗さん(3年1組)、受賞おめでとうございます。また、指揮者、伴奏者をしてくださった皆さん、本当にご苦労様でした。最後に、合唱コンクールの企画・運営をしてくれた文化委員の皆さんも大変、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

年 組	曲 名	指揮者	伴奏者
全校合唱	COSMOS	佐々木ふありさん	舟山 陽さん
2学年	ほらね、	貝沼 希愛さん	木村 尊さん
1学年	2 時を越えて	佐藤誠史郎さん	2年合唱
	1 変わらないもの	山口 裕生さん	
3学年	1 信じる	加藤瑠衣斗さん	3年1組合唱
	2 名づけられた葉	今野 颯さん	
有志合唱	翼をください	曾根原 昊さん	



3年1組「信じる」合唱

命の大切さについて学ぶ。

10月25日(金)は、本校「学校安全の日」です。本校では、7年前に3階から、誤って転落した事故を振り返り、校舎内外の生活の中で危険な行為や場所がないかどうか話し合い、安全に対する意識を高めています。

また、今年度は、講師として、交通事故被害者の会「こまくさの集い」代表の渡邊理香(わたなべりか)さんをお招きして、「命の大切さ」についても学びました。渡邊さんは、平成8年に、当時小学1年生だった娘さんを交通事故で亡くされ、平成11年に、現在の「こまくさの集い」を立ち上げ、代表を務められ、命の大切さを伝えるため県内外で講演をなさっている方です。

講演では、この世に生を受けたことは、1億円の宝くじに100万回連続であたるくらいの奇跡であり、その命を決して無駄にしてほしくないこと。また、交通事故の加害者にも被害者にもなってほしくないということ。さらには、娘を交通事故で亡くしてしまい、どんなにつらい思いをしたか、信じられない思いがずっと続いてきたこと…など、ご自分のつらかった体験をもとに、「命の大切さ」について教えていただきました。渡邊さんの詩を紹介します。

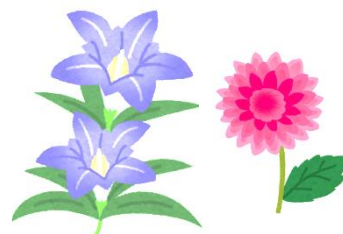


たった一人のあなたへ

あなたの誕生日はいつですか？

どんなごちそうとプレゼントで、祝ってもらおうのでしょうか？
家族みんなが、その日を待っているのでしょうか…。

三月三日のひな祭りは、娘の誕生日。その日が私の一番つらい日です。
大切な記念日なのに、おかしいでしょう？



あの子の靴も、服も、机も、何もかもがあの日そのまま残っているのに、あの子の誕生日は必ずやってくるのに、あの子だけがないのです。

いなくなった日からもう何年も過ぎたのに、「ただいま、お母さん!」と元気に帰ってくるような気がしてならないのです。私は、心の中でじっと息をこらし、あの子が帰ってくるのを待っているのです。

こんなことがありました。

「大人になったら何になるの?お花屋さん?誰か好きな人のところへ行っちゃうのかな?」
わくわくする気持ちで娘に尋ねたときの事です。あの子は急に泣き出しました。

「そんな悲しいことは言わないで。私はずっとお母さんのそばにいる。」
そんなことを言ってくれる、やさしい子でした。

どうしてあの子が急にいなくなってしまったのでしょうか。どうしてあの子だったのでしょうか。
「守ってあげられなくてごめんね。」



もう二度と笑うことのない冷たい頬を、何度も何度も撫でました。

できることならもう一度抱きしめて大好きだと伝えたい、もう一度髪を結ってあげたいのです。
もう一度声を聞かせて下さい、神様。

今、私は、何をしたらあの子が喜んでくれるかを考えています。いつかあの子に会える日が来た時、
「お母さん、頑張ったね。」と言ってほしいから…。

毎日あたりまえに会える家族を失ってわかる、あたりまえの幸せ。

あなたがそばにいることでうれしい人がいて、あなたが生きていることで、勇気が出る人がそばにいます。

あなたは、何物にもかえられない宝物。だって、この世でたった一人しかいない「あなた」なんですよ。

娘、祥子は、いつも私の傍にいたのがあたりまえすぎて、その存在がいかに大きく、かけがえのないものだったのか、幸せすぎて私にはわからなかったのです。

日々の暮らしに追われながらも、家族が一人として欠けることなく過ごせるということが、いかに大切に尊いものであるのか…。このことを少しでも多くの方に伝えることができたなら、私はいつの日かまた、祥子に会えるような気がしているのです。